

ヨコハマスノーフェスティバル2023



オリンピックの対談 左から小野塚彩那、上村愛子、福島のり子、司会者

横浜スポーツマンクラブ会員の皆さま明けましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いたします

ようやくコロナも5類の認定になり、平常の生活に戻りつつありますが、このコロナ禍の4年の間に世の中の仕組みも大きく変化しました。一番大きな変化はリモートジョブ、オンライン会議など、パソコンやスマホそして通信環境が整ってさえいれば、居場所は問わないで仕事ができるのが当たり前になりました。はたしてこの対面での関りが減った人間社会は、今後どのように変化していくのでしょうか、ちょっぴり不安です。

ところで2026年の冬季オリンピックはイタリアのコルチナダンペッツォで開催されますが、この開催地は1956年にも冬季オリンピックが開催されています。この頃、私は中学生で北海道にいてスキーを始めたばかりでした。

このオリンピックでは、トニーザイラーがアルペン三冠王、猪谷千春が回転競技で銀メダルを獲るなど、私の長いスキーとのかかわりに大きな影響を与えました。

11月23日に横浜スキー協会主催の「スノーフェスティバル」が横浜市役所のホールで開催され、オリンピックの上村愛子（モーグル）、小野塚彩那（ハーフパイプ）、福島のり子（スキークロス）さんの対談がありました。ワールドカップなどで世界を転々として競技に臨む際の裏話や、オリンピック独特のプレッシャーなど楽しい話が聞けました。

今のスキー界で子供たちに夢や希望を与え、そして目標となるアルペン選手がいないのが残念です。長野オリンピックの頃には1500万人程いた、スキー人口も今では500万人を割っているとも言われています。コロナ禍や温暖化の影響もありますが、若者のスキー離れがスキー衰退を顕著に物語っています。このような現状を踏まえて、スキーの楽しさを広く啓蒙し底辺の拡大を図っていくのが、スキークラブの役割だと考えています。クラブの運営および行事の開催など、至らぬ点が多々あるかと存じますが、これからも会員の皆さまのご協力を得て、より良いスキークラブにして行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



私のバイブル 昭和31年と34年発売の本